

# ＝ 第 1 章 ＝

## 「北海道学校改善支援プラン」に基づく学校改善の充実

### ★ 「北海道学校改善支援プラン」とは

昨年度、初めて実施された全国学力・学習状況調査について、「北海道検証改善委員会」では、その調査結果を詳細に分析し、道内すべての学校が調査結果を活用して学校改善を図る際の参考となる改善方策を示した「北海道学校改善支援プラン」を作成しました。

### ★ 道教委では、

「北海道学校改善支援プラン」に基づく学校改善を支援します。

「北海道学校改善支援プラン」には、教育委員会、学校、家庭、地域が子どもの学力向上のために取り組むべき3つの柱が示されています。

道教委では、すべての学校がこの3つの柱を踏まえて学校改善を図ることができるよう、平成20年3月に「学校改善事例集」を作成、配布するとともに、学校の取組に対する支援に努めてきたところです。

本章では、「北海道学校改善支援プラン」に示した3つの柱を踏まえて、調査結果を分析することを通して、本道の児童生徒の学習状況等や課題を明らかにし、今後取り組むべき内容について具体的に提案をすることとしました。

本報告書を活用されるすべての皆様が、学校改善を図るための具体的な取組を進める際の参考とされるよう期待します。



## 「北海道学校改善支援プラン」を支える3つの柱の検証

平成19年度全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえて北海道検証改善委員会が作成した「北海道学校改善支援プラン」には、北海道の児童生徒の学習状況等の課題を踏まえて、本プランを支える3つの柱が設定されています。

各市町村教育委員会や各学校は、これらを踏まえて、独自の学校改善プランに基づく取組を展開しているところです。

本報告書では、平成20年度全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえ、この3つの柱について、本道の実態を明らかにした上で、今後重点的に取り組むべき内容について提言を行っています。

### 「北海道学校改善支援プラン」で設定した「本プランを支える3つの柱」

#### 1 〔主体的に学び、学ぶ意義や価値を理解する〕

～自分の身に付けた力を確かめようとする意欲や態度、学習習慣を身に付けさせる～

児童生徒が日常生活の中で、学習時間を増やすなど学習に取り組む機会や場を豊かにし、進んで学習できるようにする。また、家庭において、計画的に予習や復習が行える環境を工夫することなどを通して、学習したことが身に付いたかを振り返ったり学習したことを更に深めたりするとともに、学習したことを自ら活用しようとする態度を身に付けることができるようにする。

#### 2 〔基礎・基本を確実に習得する〕

～新たに分かったことや使うことができるようになった知識・技能を  
剥落しないよう確実に身に付けさせる～

「読み・書き・計算」など、以降の学習を進める上で必要な力はもとより、学習活動の中で学んだ内容について十分に定着させ、活用することができるよう、これまで以上に繰り返し指導の実施、教材の工夫改善、学習の時数の増加、更には児童生徒による授業評価を導入したりするなど、児童生徒の側に立った指導の工夫改善を図るようにする。

#### 3 〔日常生活を充実する〕

～学校、家庭、地域との間に「確かな学力」について十分な共通理解を図り、  
児童生徒の学力や学習状況を共有し、それぞれの機能を十分に発揮させる～

児童生徒の学力・学習状況について理解を深め、課題となっている点を把握し、児童生徒に身に付けさせたい「学力」等や学校等が取り組もうとする方策について共通理解を図り、児童生徒の学力向上をはじめ日常生活の充実につながるよう、それぞれの役割を十分発揮できるようにする。

平成20年度  
全国学力・学習状況調査の  
調査結果による

分析、傾向と考察

道教委から  
新たな提言を  
行います

# 柱 1

主体的に学び、学ぶ意義や価値を理解する  
 ~自分の身に付けた力を確かめようとする意欲や態度、学習習慣を身に付けさせる~

柱1にかかわっては、児童生徒が日常生活の中で、学習時間を増やすなど学習に取り組む機会や場を豊かにし、進んで学習できるようにする取組を充実する必要があります。特に、日ごろから熱意をもって学習に取り組んだり、学校以外においても、自ら学習するなど、学習習慣を確立したりする取組を工夫することが重要です。

## 【提言1】

■学ぶ楽しさを実感させる■

## 【提言2】

■授業以外の学習の機会や時間を確保する■

### ◆普段(月～金曜日)の1日当たりの勉強時間の違いから見た平均正答率

(詳細:小学校、中学校 P129 参照)

## 調査結果

% ( ) 内はH19

【小学校】	国語A	算数A	国語B	算数B
a 2~3時間	65.8 (82.8)	72.1 (81.6)	51.1 (63.0)	51.2 (62.9)
b 全くしない	49.6 (72.2)	55.7 (66.8)	35.6 (46.0)	39.1 (49.3)
a-b	16.2 (10.6)	16.4 (14.8)	15.5 (17.0)	12.1 (13.6)
【中学校】	国語A	数学A	国語B	数学B
a 3時間以上	75.7 (83.5)	69.7 (77.9)	62.6 (73.9)	51.3 (63.2)
b 全くしない	66.6 (74.5)	46.7 (54.8)	50.0 (59.6)	35.6 (46.3)
a-b	9.1 (9.0)	23.0 (23.1)	12.6 (14.3)	15.7 (16.9)

### 【参考】

◆ 家で学校の宿題をしているかどうかの違いから見た平均正答率においても、家で学校の宿題を行っている児童生徒と全くしていない児童生徒の平均正答率の差がやや大きい傾向にあります。(詳細: P131 参照)

## 傾向と考察

学校の授業以外で勉強する1日当たりの勉強時間から見ると、昨年同様、長く勉強する児童生徒の方が平均正答率が高い傾向が見られる。例えば、小学校では、算数Aで昨年度と比べて長く勉強する児童と全くしない児童の平均正答率の差が大きい傾向が見られ、中学校においても数学Aにおいて同様の傾向が見られる。

学校の授業以外での勉強時間を確保し、学習状況が異なることがないようにする必要がある。

### ◆国語や算数・数学の勉強は大切だと思うかどうかの違いから見た平均正答率

(詳細:国語P140、算数・数学P141 参照)

## 調査結果

% ( ) 内はH19

【小学校】	国語A	算数A	国語B	算数B
a そう思う	64.0 (81.7)	69.6 (79.5)	50.1 (61.0)	50.6 (61.4)
b そう思わない	44.0 (65.0)	47.7 (56.8)	26.9 (37.0)	29.7 (40.0)
a-b	20.0 (16.7)	21.9 (22.7)	23.2 (24.0)	20.9 (21.4)
【中学校】	国語A	数学A	国語B	数学B
a そう思う	75.0 (82.2)	65.8 (72.8)	62.3 (72.6)	50.4 (61.2)
b そう思わない	62.7 (71.4)	44.9 (54.4)	45.3 (53.8)	32.4 (42.9)
a-b	12.3 (10.8)	20.9 (18.4)	17.0 (18.8)	18.0 (18.3)

### 【参考】

◆ 国語や算数・数学の勉強が好きだと回答した児童生徒の内、学校以外で勉強を2~3時間行っている児童生徒は、勉強を全くしない児童生徒よりも平均正答率が高い傾向にあります。(詳細: P129 参照)

## 傾向と考察

児童生徒が学校で勉強している内容が大切であると思っているかの回答から見ると、昨年同様、大切であると思っている児童生徒の方が平均正答率が高い傾向が見られる。例えば、小学校では、国語Bで昨年度と比べて、国語の勉強が大切だと思っている児童の平均正答率は、そう思っていない児童の平均正答率よりも高い傾向が見られ、中学校においても同様の傾向が見られる。

学校で勉強する内容が大切であることを実感させ、自ら学ぼうとする態度を育てる必要がある。

## 【提言1】 ■学ぶ楽しさを実感させる■

### 具体方策

- 児童生徒が、学びの意義や価値を理解することができる学級の雰囲気づくりや集団づくりなど、学級経営の充実に努めます。  
道教委作成資料1：「参考資料」P289参照
- 学習の目標を明らかにし、自己の学習状況に応じた学習内容を紹介し、学習を振り返ったり、新しい問題に挑戦するなど、児童生徒が学習の見通しを立てることができる学習活動を位置付けます。  
事例1（P18）参照
- 毎朝の短い時間で、問題集や小テストに取り組んだり、朝読書に取り組みます。  
事例2（P19）参照
- ある一定期間の放課後に、「自学進め方講座」等を実施して、学び方を身に付け、主体的に学んだ成果を実感できるようにします。
- 授業の学習内容と朝や放課後の学習内容の関連を図り、継続して学習を進め、予習や復習の大切さを実感できるようにします。

## 【提言2】 ■授業以外の学習の機会や時間を確保する■

### 具体方策

- 自主的な学習態度を身に付けるために、学級活動で家庭学習について考える時間を確保します。  
道教委作成資料1：「参考資料」P289参照
- 授業における学習内容の定着を図り、自らの学習状況に応じて学習内容を選択して取り組むとともに、家庭学習の習慣化を促す学習相談を行います。  
事例3（P20）参照
- 授業で学習した内容にかかわる課題を与え、家庭学習で取り組めるようにし、児童生徒が自分の知識・技能の定着の状況を把握できるようにします。
- 家庭学習で定着した知識・技能を活用して新たな課題を解決する経験を重ねるようにします。  
道教委作成資料1：「参考資料」P289参照
- 家庭学習の状況等を記録する「家庭学習シート」を活用して、児童生徒が自らの取組を把握し、学習の状況を把握します。  
事例4（P21）参照